



THE ADECCO GROUP

会社員 1,600 人を対象にした「リスクリングに関する調査」

リスクリング経験者の 8 割以上が仕事に良い影響があったと回答

リスクリングに取り組んだことによる仕事への良い影響としてもっとも多かった回答は、「仕事の幅が広がった」
全体の 3 割以上が、コロナ禍を経てリスクリングが必要だと考えるようになったと回答

【2022 年 12 月 21 日 東京】

人財サービスのグローバルリーダーである Adecco Group の日本における事業を統括する Adecco Group Japan（本社：東京都千代田区、代表：川崎 健一郎）は、この度、日本全国の 20 代から 50 代の会社員で、リスクリングがどのようなものかを理解している 1,600 人（各年代男女 200 人ずつ）を対象に、「リスクリングに関する調査」を実施しました^{*1}。

*1：「リスクリングとは何か、知っていますか」という質問に対し、「どのようなものか知っており、かつ取り組んだことがある」もしくは「どのようなものか知っているが、取り組んだことはない」と答えた回答者の中から、各年代の男女を 200 人ずつ無作為に抽出してアンケートを実施

【調査結果のポイント】

- 2 人に 1 人がこれまでにリスクリングに取り組んだことがあると回答
- リスクリングに取り組んだことがある会社員の 8 割以上が、「仕事やキャリアに良い影響があった」と回答
- リスクリングへの取り組みがもたらした仕事への良い影響としてもっとも多く挙げられたのは、「仕事の幅が広がった」
- 全体の約 9 割が今後働いていくうえでリスクリングが必要だと考えており、もっとも必要だと考えられていたのは、「いまの仕事と関連しているが、まだ持っていないスキル・能力の獲得」
- 一方、今後働いていくうえでリスクリングが必要だと答えた回答者も、5 割以上が「現在は取り組んでいない」と回答
- 現在リスクリングに取り組んでいない理由としてもっとも多く挙げられたのは、「時間的な余裕がない」
- 全体の 3 割以上が、「コロナ禍を経てリスクリングの必要性に対する考えが変わった（リスクリングが必要だと考えるようになった）」と回答

<調査結果についてのコメント>

今回の調査の結果について、アデコ株式会社ピープルバリュー本部長の初山 直威は、次のように話しています。

「将来を予測することが非常に難しくなっている現代において、『リスクリング』の必要性・重要性は飛躍的に高まっています。Adecco Group Japan でも、この度、今年で 2 年目となる『リスクリングプロジェクト』を開始しました。また、経済



THE ADECCO GROUP

産業省と金融庁がオブザーバーとして参加する『人的資本経営コンソーシアム』にも参画し、事業以外の部分でも人財躍動化の実現に向けた取り組みを進めています。

今回、我々が日本全国の会社員を対象に行った『リスクリングに関する調査』では、2人に1人がリスクリングに取り組んだ経験があり、リスクリングに取り組んだ方の8割以上が『仕事やキャリアに良い影響があった』と回答しました。リスクリングを経験した方のほとんどがその効果を実感しているのが明らかになったことで、人財および企業のリスクリングに向けた取り組みにも良い影響がもたらされることを期待します。

リスクリングの重要性についてもよく理解されており、全体の約9割が今後働いていくうえでリスクリングが必要だと考えていました。その一方で、5割以上の方が現在はリスクリングに取り組んでいないと回答していました。そして、その理由としてもっとも多かったのが、時間的な余裕がないことでした。人財が働きながらリスクリングに取り組むためには、勤務先の企業によるサポートも必要不可欠です。人事制度の整備や、リモートワークの導入をはじめとする柔軟な働き方を推進するなど、従業員がリスクリングに取り組む時間を確保できるよう支援することで、事業の成長にもつなげていけるでしょう。

Adecco Group Japanでも、従業員のリスクリングを後押しするだけでなく、『リスクリングプロジェクト』をはじめとする様々な施策を通じて、日本全国の働く人々が『リスクリング』に関心を持ち、実際に行動に起こすことができるよう、働きかけてまいります。

アデコ株式会社 ピープルバリュー本部長 初山 直威

プロフィール

2003年、サンダーバード国際経営大学院卒。2022年より現職。現職就任までの5年間は、ゴディバ・ジャパン株式会社においてHR Director、日本・ベルギー・オーストラリア・ニュージーランド・韓国を統括するグループHRヘッド、常務執行役員を歴任。2014年から約3年間は、アデコ株式会社にHR Development Directorとして在籍し、企業文化の醸成、採用活動やトレーニング、タレントマネジメントを通じた社員の人財開発および企業の成長に貢献。それ以前は、トリンプ・インターナショナル・ジャパン株式会社や日本ヒルティ株式会社など、複数の多国籍企業においてタレントマネジメントや組織開発、制度設計に従事した経験を持つ。



THE ADECCO GROUP

< 調査結果詳細 >

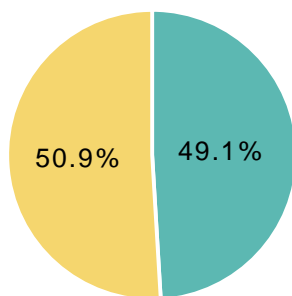
(1) 2人に1人がこれまでにリスキリングに取り組んだことがあると回答

日本全国の会社員 1,600 人に対し、「あなたは、これまでにリスキリングに取り組んだことがありますか。時期や期間は問いません」と質問したところ、「ある」が 49.1% (785 人)、「ない」が 50.9% (815 人) でした。回答者の 2 人に 1 人が、リスキリングに取り組んだ経験があることがわかりました。



これまでにリスキリングに取り組んだことがあるか

(n=1,600)



■ ある ■ ない

(2) リスキリングに取り組んだことがある会社員の 8 割以上が、「仕事やキャリアに良い影響があった」と回答 / リスキリングへの取り組みがもたらした仕事への良い影響としてもっとも多く挙げられたのは、「仕事の幅が広がった」

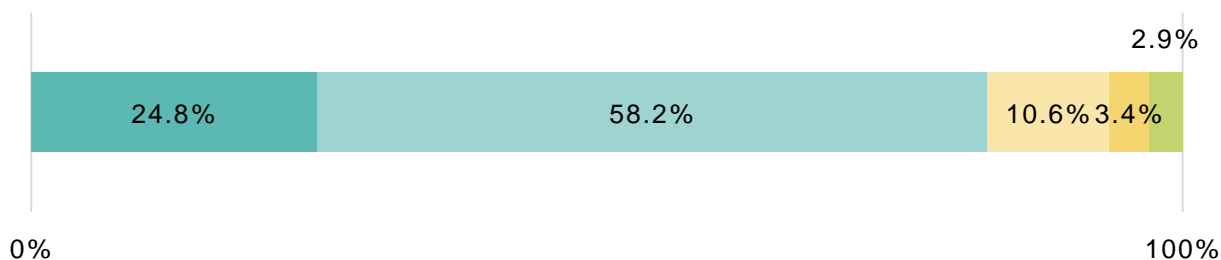
「これまでにリスキリングに取り組んだことがある」と回答した 785 人に対し、「リスキリングに取り組んだことで、仕事やキャリアに良い影響はありましたか」と質問したところ、8 割以上となる 83.1% (652 人) が「あった」と回答しました。

続けて、リスキリングに取り組んだことで仕事やキャリアに良い影響があったと回答した 652 人に対し、「具体的にどのような良い影響がありましたか」と質問したところ、良い影響としてもっとも多く挙げられたのは「仕事の幅が広がった」(57.7%)、次いで「仕事へのモチベーションが上がった」(43.6%) でした。



リスキリングに取り組んだことで仕事やキャリアに良い影響があったか

(n=785)



■ あった ■ どちらかといえばあった ■ どちらかといえばなかった ■ なかった ■ わからない



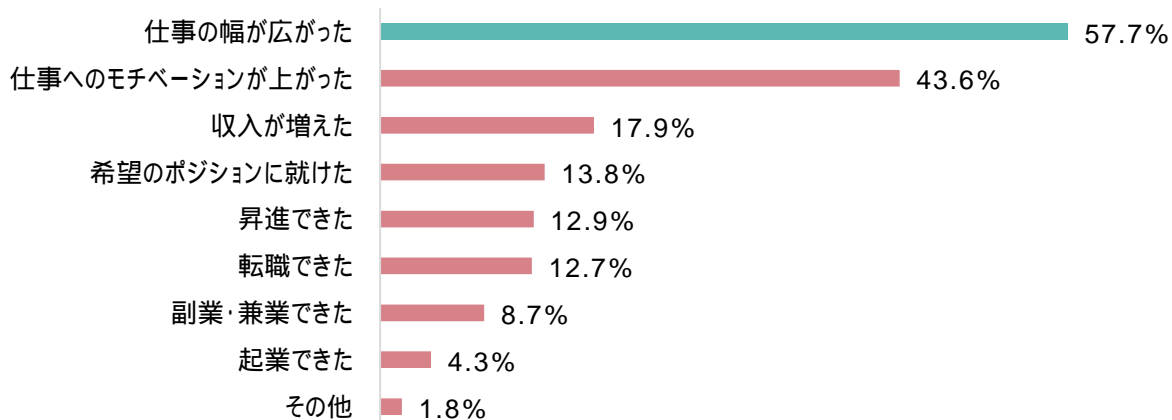
THE ADECCO GROUP



THE ADECCO GROUP

リスキングに取り組んだことでどのような良い影響があったか

(n=652)



(3) 全体の約 9 割が今後働いていくうえでリスキングが必要だと考えており、もっとも必要だと考えられていたのは、「いまの仕事と関連しているが、まだ持っていないスキル・能力の獲得」

日本全国の会社員 1,600 人に対し、「あなたは、今後働いていくうえでリスキングが必要だと思いますか。リスキングに取り組んだ経験の有無は問いません」と質問したところ、約 9 割となる 88.6% (1,418 人) が「思う」と回答しました。

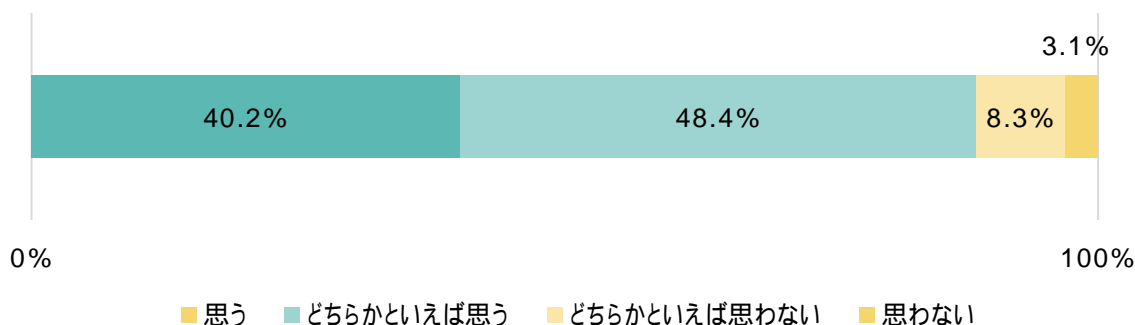
続けて、今後働いていくうえでリスキングが必要だと思うと回答した 1,418 人に対し、「あなたは、どんなリスキングが必要だと思いますか」と質問したところ、もっとも必要だと考えられていたのは、「いまの仕事と関連しているが、まだ持っていないスキル・能力の獲得」(70.6%) でした。



THE ADECCO GROUP

今後働いていくうえでリスキングが必要だと思うか

(n=1,600)



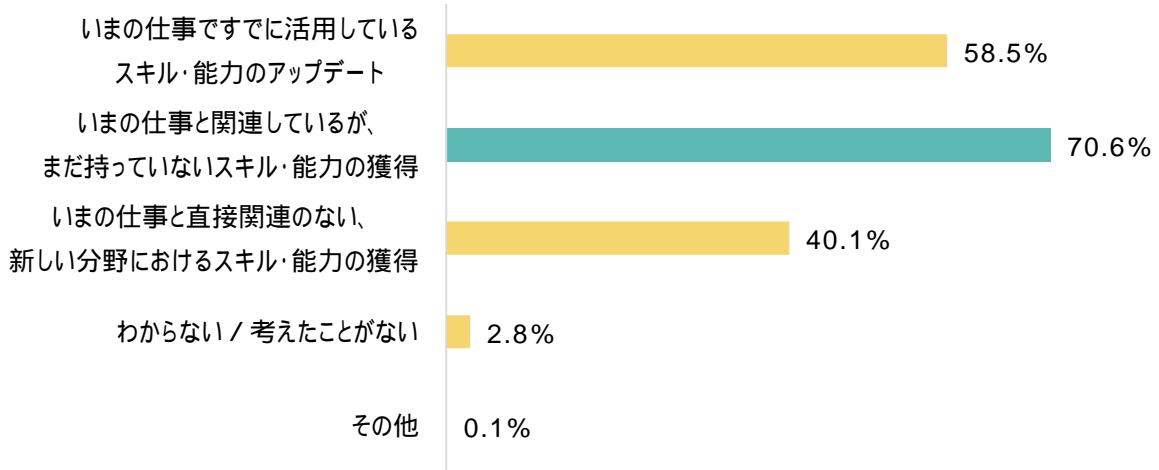


THE ADECCO GROUP



今後働いていくうえでリスキリングが必要だと思うか

(n=1,418)



(4) 今後働いていくうえでリスキリングが必要だと答えた回答者も、5割以上が現在は取り組んでいないと回答 / リスキリングが必要だと思うが現在は取り組んでいない理由としてもっとも多かったのは、「時間的な余裕がない」

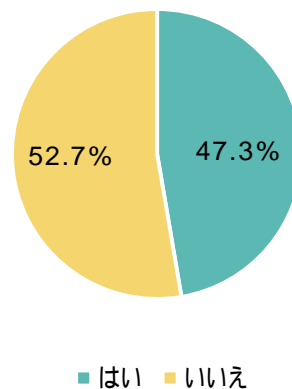
今後働いていくうえでリスキリングが必要だと思うと回答した 1,418 人に対し、「あなたは、現在リスキリングに取り組んでいますか」と質問したところ、「はい」が 47.3% (671 人)、「いいえ」が 52.7% (747 人) で、リスキリングが必要と考えている人でも、5割以上が現在は取り組んでないことがわかりました。

リスキリングは必要だと思うが現在は取り組んでいないと答えた 747 人に対し、「その理由は何ですか」と質問したところ、もっとも多かった答えは「時間的な余裕がない」(54.5%) でした。



現在リスキリングに取り組んでいるか

(n=1,418)





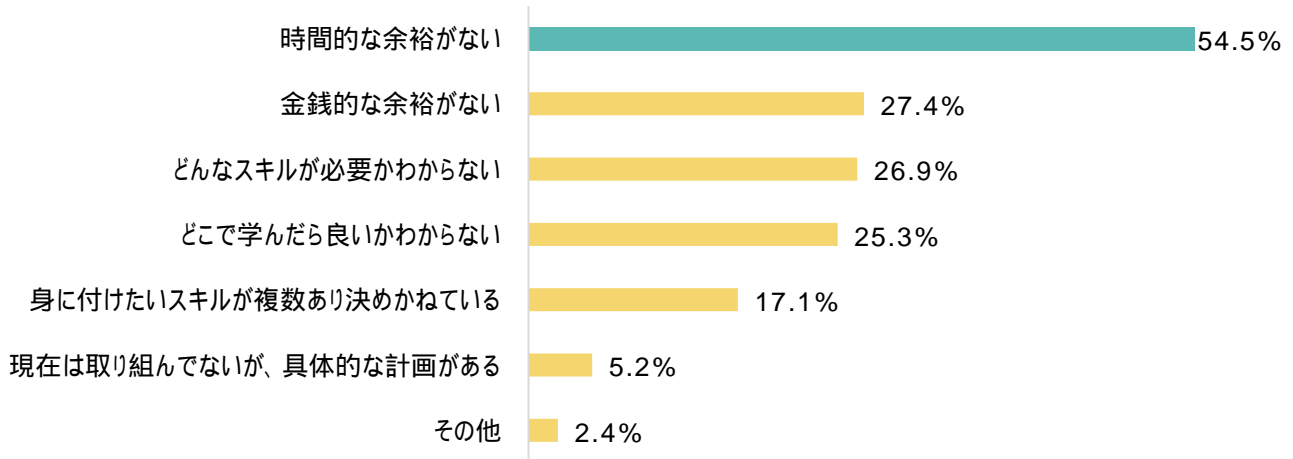
THE ADECCO GROUP



THE ADECCO GROUP

リスキングが必要だと思うが現在は取り組んでいない理由

(n=747)



(5) 全体の3割以上が、「コロナ禍を経てリスキングの必要性に対する考えが変わった（リスキングが必要だと考えるようになった）」と回答

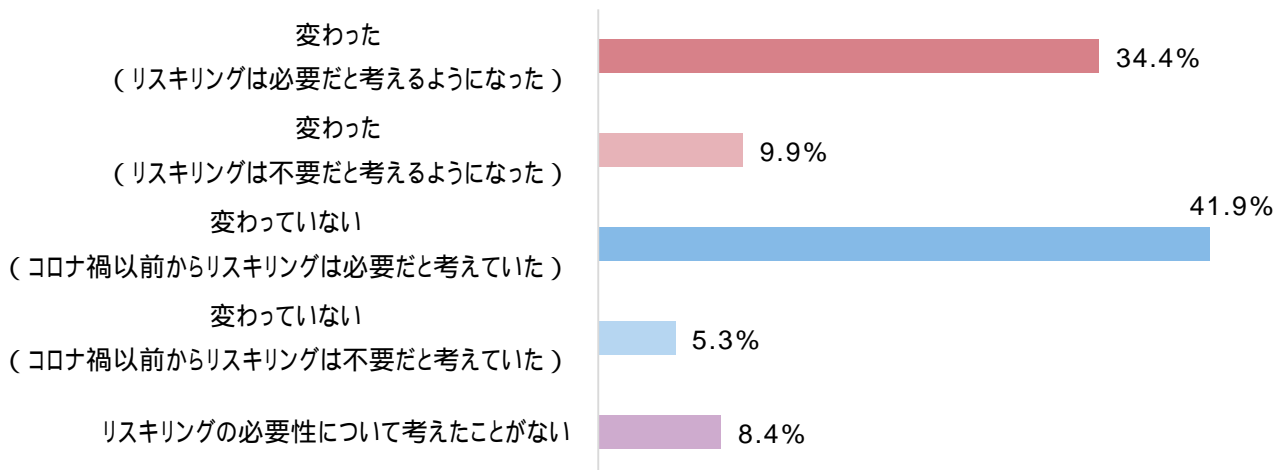
日本全国の会社員 1,600 人に対し、「コロナ禍を経て、リスキングの必要性についてのあなたの考えは変わりましたか」と質問したところ、3割以上となる 34.4%が「コロナ禍を経てリスキングの必要性に対する考えが変わった（リスキングが必要だと考えるようになった）」と回答しました。



THE ADECCO GROUP

コロナ禍を経てリスキングの必要性に対する考えが変わったか

(n=1,600)



本調査の回答結果はすべて小数点第 2 位を四捨五入して算出したパーセント表示を行っているため、数値の合計が 100%にならない場合があります。

本リリースに基づく内容をご掲載の際は、必ず「Adecco Group Japan 調べ」と明記していただきますようお願いいたします。



THE ADECCO GROUP

【調査概要】

調査対象： 日本全国の 20 代から 50 代の会社員（正社員・派遣社員・契約社員 / 嘱託社員）
サンプル数： 1,600 人（各世代男女 200 人ずつ）
調査方法： インターネット調査
実施時期： 2022 年 11 月 1 日～4 日
調査実施会社： 楽天インサイト株式会社

Adecco Group Japan について

Adecco Group Japan は、世界 60 の国と地域で事業を展開する人財サービスのグローバルリーダーである Adecco Group の日本における事業体の総称です。Adecco Group Japan における法人は、アデコ株式会社、Modis 株式会社、Modis ビジネスサポート株式会社の 3 社です。Adecco Group Japan は、Adecco、Spring Professional、Modis、LHH、Pontoon の 5 つの事業ブランドを通じて、人財派遣、アウトソーシング、コンサルティング、人財育成・組織変革をはじめとするサービスを提供し、すべての働く人々のキャリア開発を支援するとともに、企業の多岐にわたる業務の最適化と業績向上をサポートします。Adecco Group Japan は、「『人財躍動化』を通じて、社会を変える。」をビジョンとして掲げ、さらなるサービスの強化に取り組んでいます。当社に関するより詳しい情報は、www.adeccogroup.jp をご覧ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

Adecco Group Japan 広報部
Tel. 050-2000-7024